

東京都福祉保健局主催 「個人防護具着脱訓練」

広報部 藤田 光裕

昨今、新型コロナウイルスに関連した肺炎の罹患が国内でも発生し、来たる新型感染症発生や国内上陸時の診察時において新型インフルエンザレベルの感染症対策が必要不可欠なタイミングなのかもしれません。この度、東京都の主催で「個人防護具着脱訓練」が令和 元 年 12 月 3 日(火)武蔵野市医師会館で実施されました。派遣講師は順天堂東京江東高齢者医療センター看護師石井 幸さんと東京都立大塚病院看護師佐藤 香理奈さんの2名で、司会は羽田防災担当理事に務めて頂きました。

初めに、DVD にて着脱訓練の流れを理解してから実際の訓練に移りました。

個人防護具着脱のポイントとして4点あり、

1. 適切な防護具を選択
2. 二次感染を防ぐことに集中
3. 感染を防ぐ手順を理解
4. 着脱のための“場”を整える

ことです。実際の訓練に先立って事前に会議室内の準備を行いました。会議用テーブル1台に4人が使える防護具を設置、テーブルの縦方向にガムテープでラインを設定し、汚染区域、中間区域（通過区域、準汚染区域）清潔区域と分け隔て、汚染区域内に椅子2脚を設置しました。

防護具を着用するのは清潔区域で脱衣するのは中間区域になります。診療する区域は「汚染区域」なので、診察する医師、される患者さんも、汚染者として扱われます。そして汚染をさらに広げる2次感染の予防、診察する医

師の2次感染予防が防護具の目的になります。

まず適切な（体に合ったサイズ）の防護具を選び、訓練を開始しました。

防護具の内容は

- 1 手袋2種、インナー用、アウター用として2組
- 2 N95 マスク
- 3 ガウン
- 4 キャップ
- 5 ズボンシューズカバー
- 6 ゴーグル

着脱訓練開始時に時計、指輪、名札、携帯電話等身につけているものは全て外します。着脱は基本的に2人1組で実施し、装着の介助と最終点検を行います。



着衣時：

手指の衛生のためアルコール消毒を最初に行う。

- 1 身につけた物を全て外す。
- 2 防護具のズボンをはく。
- 3 ガウンの袖を通して、背中上部のマジックテープで首後部を締める。

- 4 ウェストの紐を結び背部のガウンが折り曲がらないように確認してもらう。
- 5 椅子に座りズボンの裾を覆うようにシューズカバーを履いて紐を締める。
(リボン結びがほどこしやすい)
- 6 N95 マスクを装着する。これはゴムが2本ついており首の後ろと頭にかける。マスクは上下の畳まれた部分をきちっと広げ、鼻に当たる金属を押し付け隙間をなくし、息を吹きかけて密閉性を確認する。
- 7 キャップを髪の毛が出ないようにかぶる。
- 8 ゴーグルを着用する。
- 9 ガウンの袖を捲り上げてインナー手袋を着用して、袖を手袋の上に被さるように伸ばす。更に、アウター手袋を着用する。
(手袋は介助者に広げてもらい手を差し入れると着用し易い。)
- 10 最後に皮膚の露出がないか介助者に確認してもらう。



脱衣時：

アルコール消毒から開始する。

- 1 まず手指のアルコール消毒後、アウター手袋の手首近くの縁の外側をつまみ手袋を裏返すように手から外す。外した手袋は外す動作をした手に丸めて握り、アウター手袋を脱いだ手で、反対の手のアウター手袋の内側に指を差し込むようにしてから同じ動作をする。最後に汚染物質入れに捨てる。
(アルコール消毒) 2 シューズカバーの紐をほどこく。
(アルコール消毒) 3 キャップの上部真ん中をつまむように上に引っ張り上げ脱ぐ。
(アルコール消毒) 4 ガウンの紐をほどこき、首のマジックテープを介助者に外してもらい、内側が外向きになるように丸めながら脱ぐ。
(アルコール消毒) 5 ズボンの内側に手を入れて同様に内側を外向きに丸めながら下げる。その後、椅子に腰掛けて、シューズカバーと合わせて脱ぐ。
(アルコール消毒) 6 インナー手袋を内側に指を入れ裏返す様に脱ぐ。
(アルコール消毒) 7 マスクは頭部のゴムバン

ド、ついで首のゴムバンドをはずす。全て、汚染廃棄する容器に捨てる。

- 8 最後に手指のアルコール消毒で終了。



2人1組で交互に着脱訓練をしました。重要なことは感染を防ぐことが目的であるため汚染部分に接触しないように操作することです。

最後に記念撮影をし、派遣看護師の方の講評を頂きました。よく理解されて十分に訓練できた旨のお言葉をいただきました。

2、3質問があり、十分な成果を収めて終了となりました。

季節柄、新型コロナウイルスによる感染がパンデミックに拡大しない様に、感染予防対策をしっかり行う事が重要であると思います。

